

脳裏に広がる故郷の姿

この手で取り戻したい

幼い頃から、身近で行われている道路工事を食い入るように見ていたという鈴木さん。地崎道路を選んだのは「日本全国で道路づくりに取り組むチャンスがある」と考えたからだった。

「予想した通り、全国各地の道路舗装工事をはじめ下水道、上水道、電線共同溝など、さまざまな工事に携わることができました。予算、人的管理なども手がけながら、何もなかったところにインフラを作り上げていく面白さは、学生時代のイメージを超えていたかもしれません」

だが、あの日。充実した日々が一転した。2011年3月11日。

震災発生時は、長野県・佐久市で道路工事に携わっていたという鈴木さん。復旧工事への参加要請を受けると、すぐさま車に乗り込み同社東北支店に向かった。

「仙台出身の私によって、まず気になったのは親の安否でしたね。居ても立ってもいられない気持ちで、アクセルを踏み続けていたのを覚えています」

仙台が近づく。寸断された道路、津波に押し流された家々。海から離れた場所にある実家は津波による被害は逃れたものの、壁が崩れるなどの被害を受けていた。

「母の無事を確認してホッとしましたが、思い出がしみこんだ風景は一変していました」

そんな彼が、現在、携わるのは津波によって壊滅した岩沼～亶理間を走る県境の復旧工事である。

「この道路復旧は、ほんの小さな一歩に過ぎないでしょう。でも、ずっと先には、私が慣れ親しんできた、優しく、キラキラ光る仙台の街があります。それを見届けるまで、いつまでも現場にはりつく覚悟です」

あの日の仙台、あの日の東北を取り戻すために。鈴木さんはみずからの手で、



鈴木宏章さん
本州統括事業部 工務部

PROFILE

2007年入社。工学部建設システム工学科卒。仙台市出身。就職活動の際、高速道路の建設を担う企業という視点から、全国各地で幅広い実績を持つ地崎道路に入社。現在は、全国各地の現場を飛び回り活躍している。

「安全を確保するためにもコミュニケーションは重要です。現場の雰囲気を明るく盛り上げ、挨拶も積極的にを行い、協力会社の方の意見にも耳を傾けるようにしています」と語る鈴木さん。

Portraits of The Professional

日本のライフラインを支える

「誇り」と「達成感」

人目につきにくい「土木」だが、人々の暮らしに直結するライフラインと深く関わる重要な現場が多い。土木工事に関わり8年目の鈴木宏章さんは、東日本大震災で壊滅した道路の復旧工事を担当。故郷への思いを込めて仕事にあたっている。